

**NPT再検討会議最終文書提出なしに、たじろがず世界大会成功へ**

2015年第9回NPT再検討会議は、日本から1000人を超える「核兵器廃絶」への要請行動を行ったにもかかわらず、表記の結果に終わりました。大きな前進点である、第1回中間文書には、初めて「核廃絶の国際会議」が提起されました。核兵器国の核抑止論への固執の逆流があったのです。しかし、大局的に見れば「核廃絶」の流れはもう押しとどめることが出来ない国際的世論として各国政府の合意が形成されつつあるのではないのでしょうか。

この流れを日本でさらに強めることが、いよいよ急がれます。「安倍内閣」の平和安全法制という名の、戦争立法が上程されているからです。その意味で今年の平和行進は今までになく緊迫した情勢の中で行われます。

**本日6月14日徳島県境で、四国コースを引継いで、県内コースを開始 参加者12組織・25名**

高知県からスタートした四国コースも、徳島県から3県目の香川県に引継ぎました。本日の引継式は、平和行進横断幕の引継ぎから始まりました。香川県の引継ぎ者は原田こはるさん(9才)と唯君(6才)の次世代の2人でした。この世代に「核戦争」の恐怖をさせてはならないとの思いをこめたからです。

引き継ぐ香川県は3氏が決意表明しました。その要旨は次のとおりです。

**安部行洋県高教組執行委員長**：今回のNPT・NY行動に初めて書記長を派遣したことを報告のあと、被爆70年の節目に戦争立法の暴走に抗議の東京集会にも参加した。高教組の原点である、「教え子を再び戦場に送らない」の決意は固いが、毎年県内では20～30人が自衛隊に入隊する。いよいよ原点のスローガンが切実になっている。戦争立法を廃案にするためにも、平和行進を頑張りたいと決意表明。

**堤昭県労連議長**：しっかりと行進横断幕を引き継ぎ、行進すると表明。さらに戦争立法に「維新」も賛成との国会情勢にもふれ、労働者派遣法の非道に怒りをこめて行進を頑張ると決意。

**東本政行東かがわ市議会議員**：地元として、先の戦争で1630名の戦没者を出していることを報告。今日の行進には高校生(2年生)が参加していること、明日には東かがわ市長も激励を受けることを報告した。この高校生(民青)は先頭に立ち、行進横断幕を持って最後まで元気に行進しました。

